

日本WPA セミナー&見学会

ファビオ(岡山)で熱く語る

攻めの水なしへ情報共有

日本WPA(田嶋久義会長)は10月12日、工場見学会とセミナー・懇親会を岡山市内で開催し、約50名が参加した。WPA会員企業のファビオの見学、5氏によるパネルディスカッション「水なし印刷の導入・安定化への提言」技術面、経営面、UV印刷の現状」(詳細は9面)を行い、夕刻からは会場を移して懇親会、翌日はゴルフコンペで交流を深めた。



田嶋会長



池上社長

活動やセミナーを通じて、コソコソと社会貢献、環境対応を積み重ねていきたい」とあいさつした。パネルディスカッションは、水なし印刷についてより深く理解することを目的に、吉川昭二氏(サンエー印刷常務)の司会で行った。池上鎌三郎氏(ファビオ社長)、大森七幸氏(アインズ社長)、東條秀樹氏(北東工業社長)の3氏が自社の水なし印刷への取組みや導入の成果、今後への期待などを語った。東レの技術協力会社であるタケミの柴崎武士社長が技術面からの補足を、

「最近、日本企業のいろいろな不祥事が目立っている。信用を築くには非常に時間がかかるが、失う時は一瞬だ。水なし印刷も、環境対応や高品質で培ってきた信用をさらに高めていくことが大事になる。いろいろな広報



水なし導入成果を語ったパネルディスカッション

「どっぞいつでもお越しく、さらに速乾性も上回ってください」と見学を歓迎するやり取りも行われた。ディスカッションの後、小川勇造事務局長が、9月25日から28日までベルギー・ブリュッセルで開催されたラベルエキスポ2017の視察報告を行った。水なし仕様ラベル印刷機の普及や、KB A社のクレジットカード専用水なし印刷機など幅広い用途を紹介したほか、EB印刷(電子線硬化印刷)の技術的な進化について解説し、「UVに比べ臭気が多くな



パウダーレス仕様で運用する水なし両面8色機

く、さらに速乾性も上回り、被膜強度も高い。オフセット、インクジェット用のEBインキの開発も進んでいる。東レが、印刷機メーカー、インキメーカー、印刷会社と共同開発中の水性インキをEBインキに転用することができれば、完全VOCレス、臭気レスの「究極の印刷」ができることになる」と、今後の大きな可能性に期待した。工場見学では、池上社長の案内で工程順に回った。同社は1965年に創

業し、2003年には4色機を導入して印刷会社へと業態変革を図った。現在は、クロスメディア事業も積極的に展開し、顧客の販売促進支援業務としての性格を強めている。生産性や品質面で同社のバックボーンとなっているのが水なし印刷であり、ジャパンカラー標準印刷認証と合わせた数値管理への取組みで経営改善効果をもたした。池上社長は「お互い

は、ぜひ検討していたきたい」と述べた。この日は、日本WPAが制作、完成したばかりのクライアント向け水なし印刷プロモーションビデオも披露された。化粧品メーカー社長や団体広報誌編集長が、水なし印刷への高い評価を自身の言葉で語っている。日本WPA事務局では、YouTubeへのアップも検討している。